

## 三河繊維産業商品開発研究会とTDA会員とのコラボレーション



JC(ジャンクリエーション)2006に出展(有明ビッグサイト2005年12月7日～9日開催)三河産地は綿織物の産地として有名であったが、近年はポリエステルカーテン産地としてインテリア業界では知られている。又、特徴的なのは産元商社が全面に出て、機屋さんの姿は見えないという今時不思議な産地であり、ビジネス形態もOEM(相手先ブランドによる生産)生産であった。これからどう脱皮できるかが今後の産地の生き残りが課題であった。三河商品開発研究会はTDAとコラボレーションすることで、企画会社やデザイナーと直接取り組み主体的な「モノ作り」を目指した。この事業は、「モノ作り」だけでなく、今後の事業の継承の為に若手「人材育成」も併せて行った。「人材育成」については杉山が担当し、基本的な商品化計画をレクチャーし乍ら、TDAのデザイナーと組んで「モノ作り」を進めてきた。

第一回目の事業であり、JCの出展の成果は、当初より期待されるものではなかったが、主体的な企画力～モノ作りを研修し、直接デザイナーと取り組みモノを作り、展示商談会のディスプレイを考えショーイングも行ったことが大変良い経験となった。モノ作りも含めた研修は多大な経費がかかる。参加企業の社長さん方には大変な御理解と我慢を戴きました。

・個社ごとの企画～モノ作り、出展も各社別スタンド「個・性・共・演」従来の産地組合の出展は専門のコーディネーターへの依頼で、コンセプト～テーマカラー、デザイン展示構成迄、コーディネーターサイドで企画提案し、モノ作りはデザインを振り分けて作る事が多かったが、今回はこれから個別で行うことで、とかく同質的な産地内の同業者から、どう自社の特徴を打ち出すかが目標の一つでもあり、この第一歩となった。多くの課題を残したが、3 年間は継続して行きたい。(杉山 哲三)

・参加企業とTDAデザイナー	
小森(株) / 豊方康人	トキワ織物(株) / 古関崇尚
森菊(株) / 古屋興一	森重實業(株) / 今野文雄
フタキインテリア(株) / 今井弘子	(株)松坂 / 宮嶋直子

## 高野口パイルファブリックデザイン開発事業



ダイナミックな高さ5mの生地展示      ユニークな発想の商品開発      アートな感覚が評価されたソファ

和歌山県高野口のパイル織物産地の有志企業13社が、平成18年3月16日、17日の2日間、東京六本木のオリベホールにて、初の単独展示会を開催しました。これは、和歌山県が平成17年度から始めた企画提案型産地形成支援事業の第1弾として高野口パイル織物産地が支援を受け、株式会社大阪繊維リソースセンターが総合コーディネートをしながら、TDAの会員デザイナー2名との協働でテキスタイル開発及び、斬新な商品サンプルを開発しました。高野口産地は、基布に毛(パイル糸)を織り込んだ特殊有毛生地を生産する国内唯一の産地。しかし、海外品の流入などで生産額はピーク時の5分の1にまで縮小しています。このままでは産地にもづくりの火が消えてしまう危機感から、有志企業13社が立ち上がり企画提案型の産地を目指しこの取り組みを行いました。本事業を推進するに当たり、TDAには、リソースセンターから公募の形を取り、最終的に正会員の朝比奈由起子氏と仁井佳代子氏の2名のデザイナーを選出し、今回の取り組みに協力していただきました。アパレル分野向け商品とインテリア分野向け商品に分け開発したテキスタイル及び二次製品サンプルは、「キュート&ラグジュアリー」を素材開発のテーマとし、季節感(四季)をキーワードに視覚、聴覚、触覚など人間の感性に訴えるものづくりを目指しました。アパレルとインテリアの2つのカテゴリーが同居する商品開発でしたが、業界内外から「大変ユニークで斬新な発想」と高く評価されました。今回の成功事例を基に、今後も国内産地の活性化に向けて、産地とTDAの接点を探りながら、産地に不足しているソフト力を充実できるよう、産地企業とTDAのつながりを、リソースセンターとしてもさまざまな方向で考えていきたいと思えます。(尾原 久永)